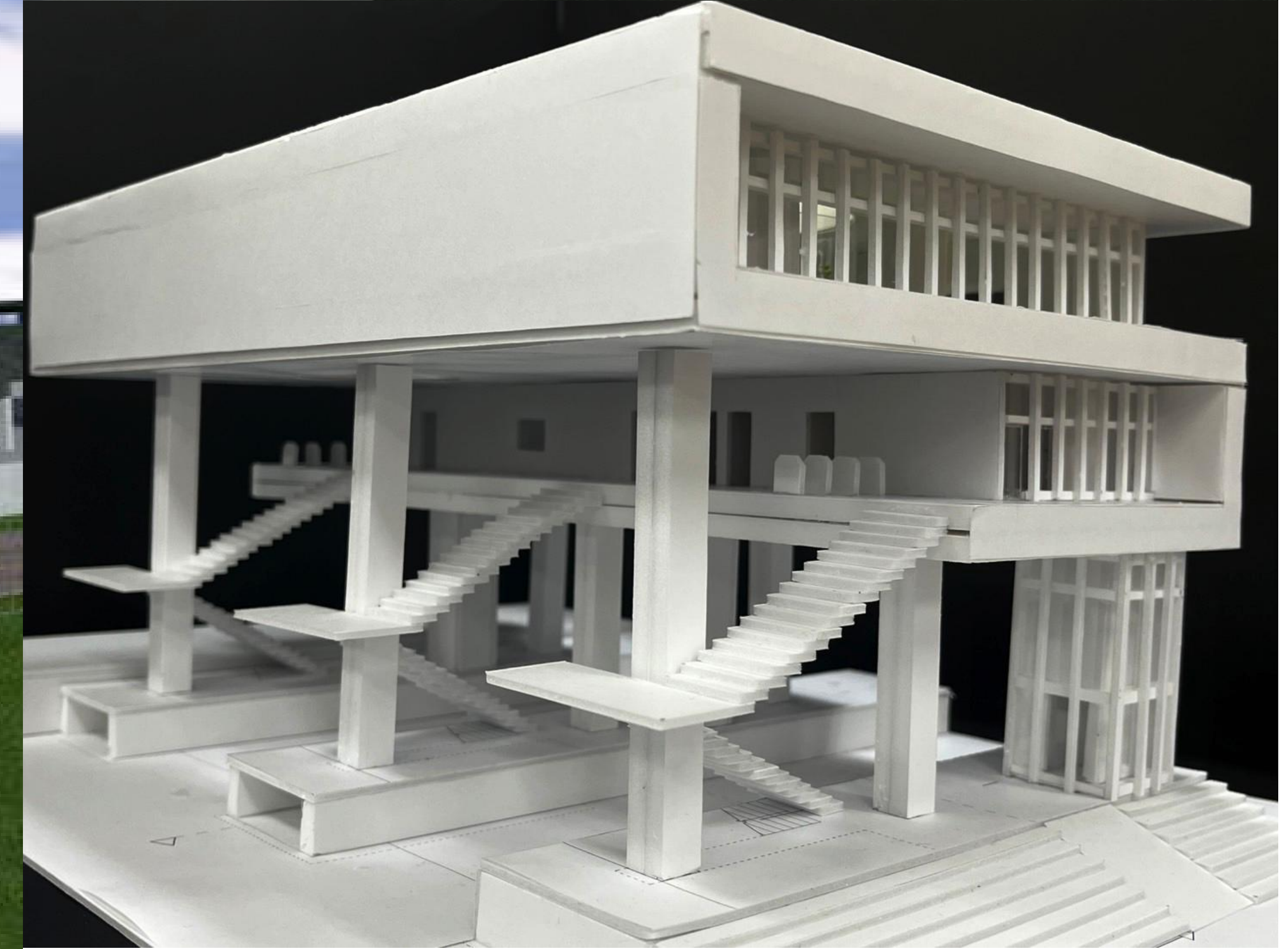




九産大内駅 ～学生と共に移り変わる駅～

諫見研究室 21UH013 草本龍輝

1. 背景

本研究では、九産大前駅の建て替え案を通して大学の機能を駅内に取り込んだ駅舎の設計を提案する。九産大前駅は1989年に開業し、今年で35年目を迎える。一般的に駅舎は20～30年で改修が必要であると言われおり、九産大前駅もその時期に入っている。

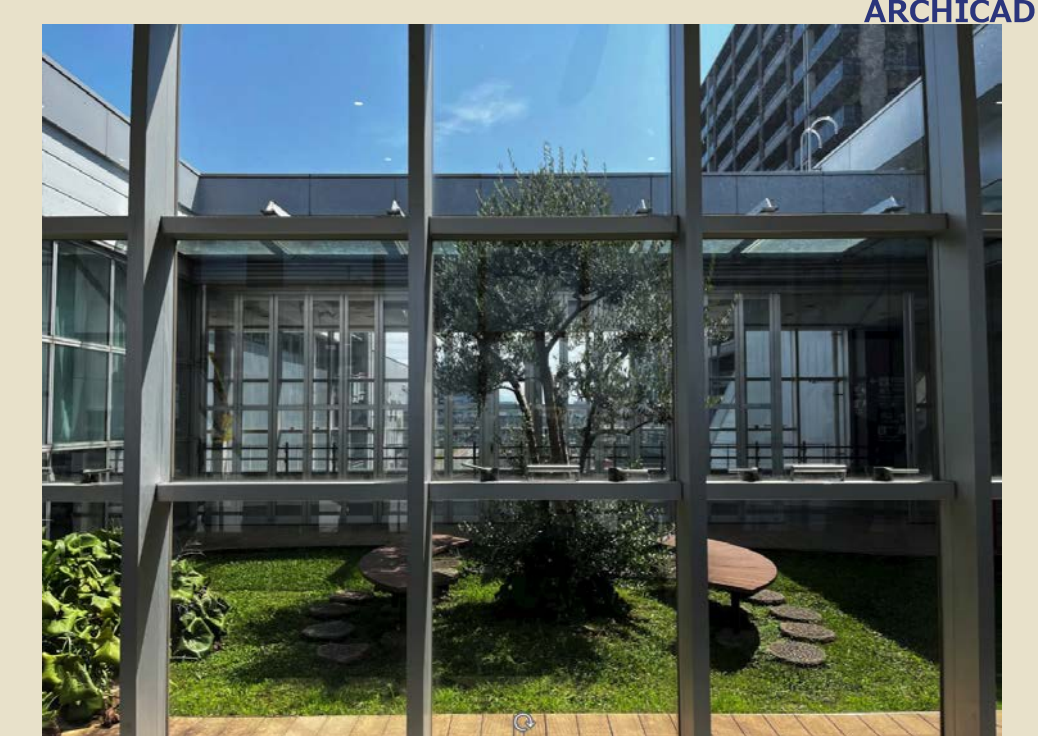
大学が建設費の半分を負担しているということもあり今回はJR九州と共同研究で進んでいる。駅の機能面やデザイン面を駅の利用者という立場から改善しつつ、学生のならではの柔軟な発想での建て替え案の提案が要求されていると考える。

2. 設計趣旨

この研究の目的としては、大学の機能を取り込んだ駅を設計することで駅が大学の一部として機能するという、全く新しい駅のかたちを提案するというものである。周辺地域とのつながりを意識した利用者全体にとって利用しやすい駅づくりを心がけていく必要があると考える。

3.現地踏査

九産大前駅と同規模で快速の停まらない駅である、新宮中央駅とししぶ駅で現地踏査を行った。新宮中央駅には駅中心に全面にひらいた植栽豊かな中庭が設置されており、ししぶ駅にはホームに木目のデザインが施されているなど、その駅を印象付けるデザインがそれぞれの駅に存在していた。



4.事例調査

九産大前駅と同じく、駅名に大学名が入っている大学前駅についてたくさんの事例研究を行った。しかし本研究のように大学の機能を取り込んだ駅というものは見受けられず、羽沢横浜国大駅のように大学の電光掲示板が設置されていたり、中央大学明星大学駅のように大学と駅がペDESTリアンデッキで繋がっているという事例が多く存在した。



5.九産大前駅の特徴・問題点

九産大前駅の特徴としては、本学の学生の作品が展示されている「えきなかギャラリー」が設置されていることが挙げられる。学生の作品を展示しているという点は、大学の要素を取り込んだ他の駅には見られない九産大前駅の大きな特徴である。

問題点としては主に2つ挙げられる。

- ①内観外観ともに目を引くような特徴的なデザインがない。
- ②人が集まる場所、留まるスペースがない。
- ①の問題点に対して、九産大前駅ならではの要素を取り込んだ駅舎のデザインを施すべきだと考えた。
- ②の問題点に対して、駅前広場や待合室など、人が集まり利用者のコミュニティの場となるようなスペースを設けるべきだと考えた。



6.対象敷地について

設計主旨である大学の一部として機能する駅を設計するという点から、対象敷地を九州産業大学中央会館前の広場と国道495号に挟まれた場所に設定した。JR鹿児島本線と香椎線が並列している。

7.設計要旨

目的

本設計では、大学の要素を取り込んだ、大学と深く関わり合う駅の設計を目的とする。

コンセプト

大学ならではの要素を考えたときに、学生が**移り変わっていく**ことであると感じた。学生が移り変わっていく中で、駅自体も移り変わっていくものになると、大学ならではの要素を取り込んだ駅になるのではないかな。

移り変わる → 映り変わる

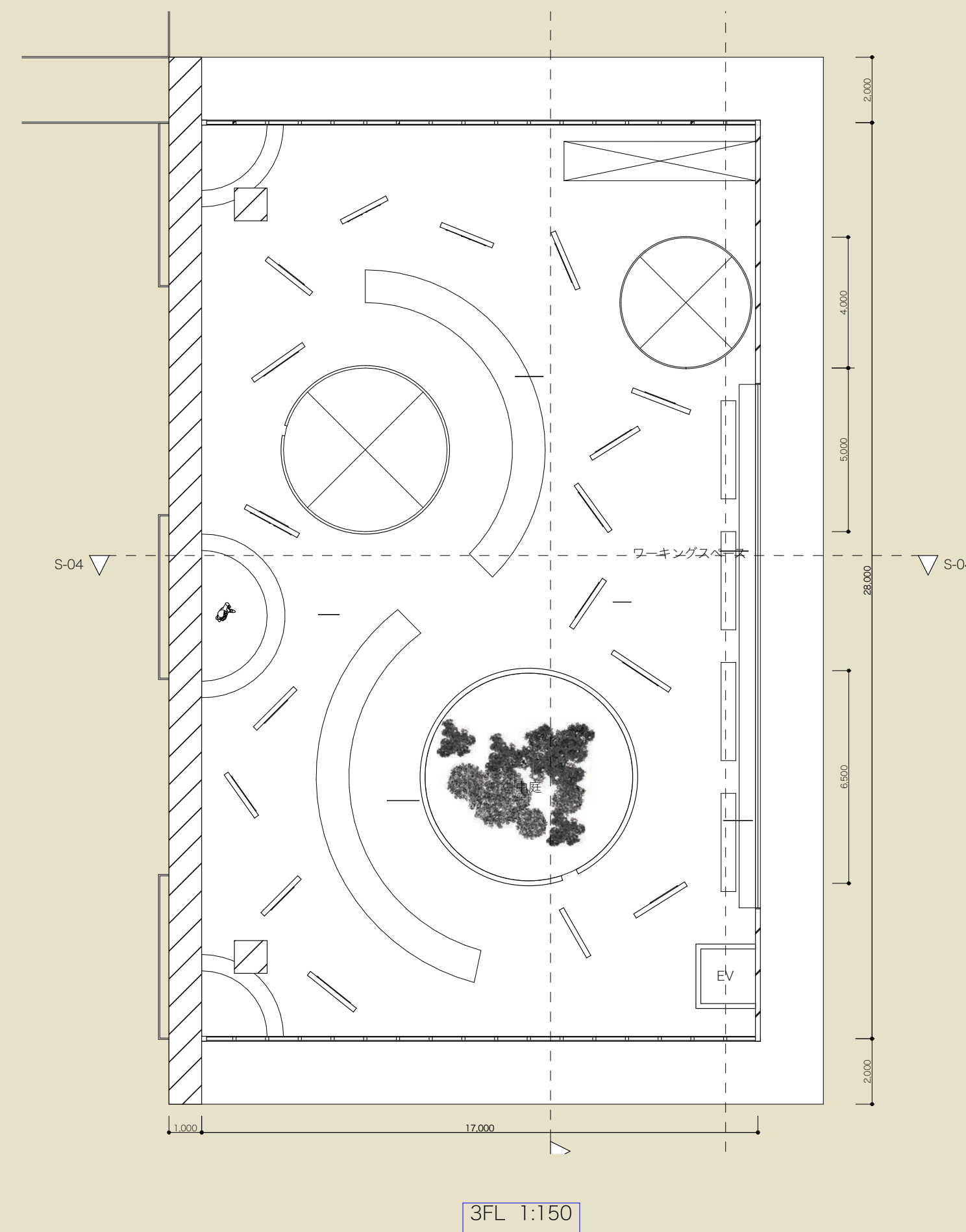
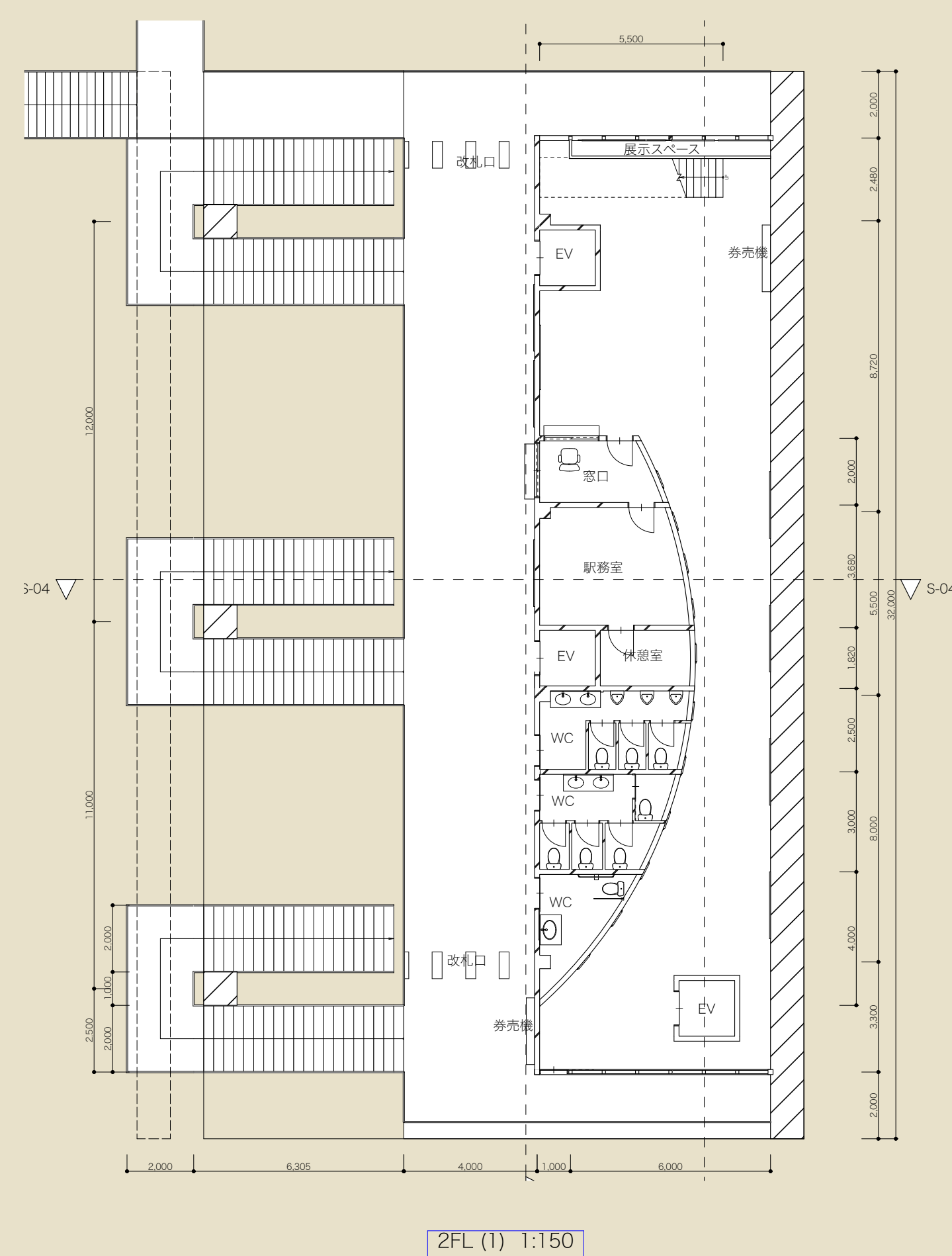
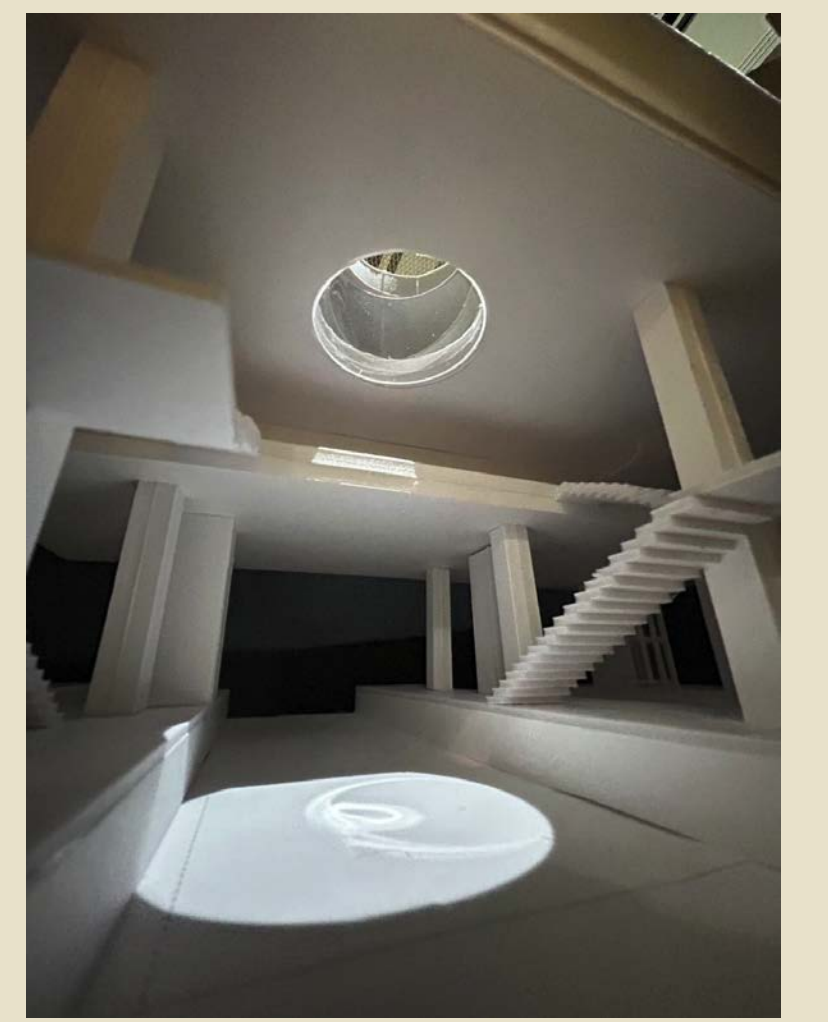
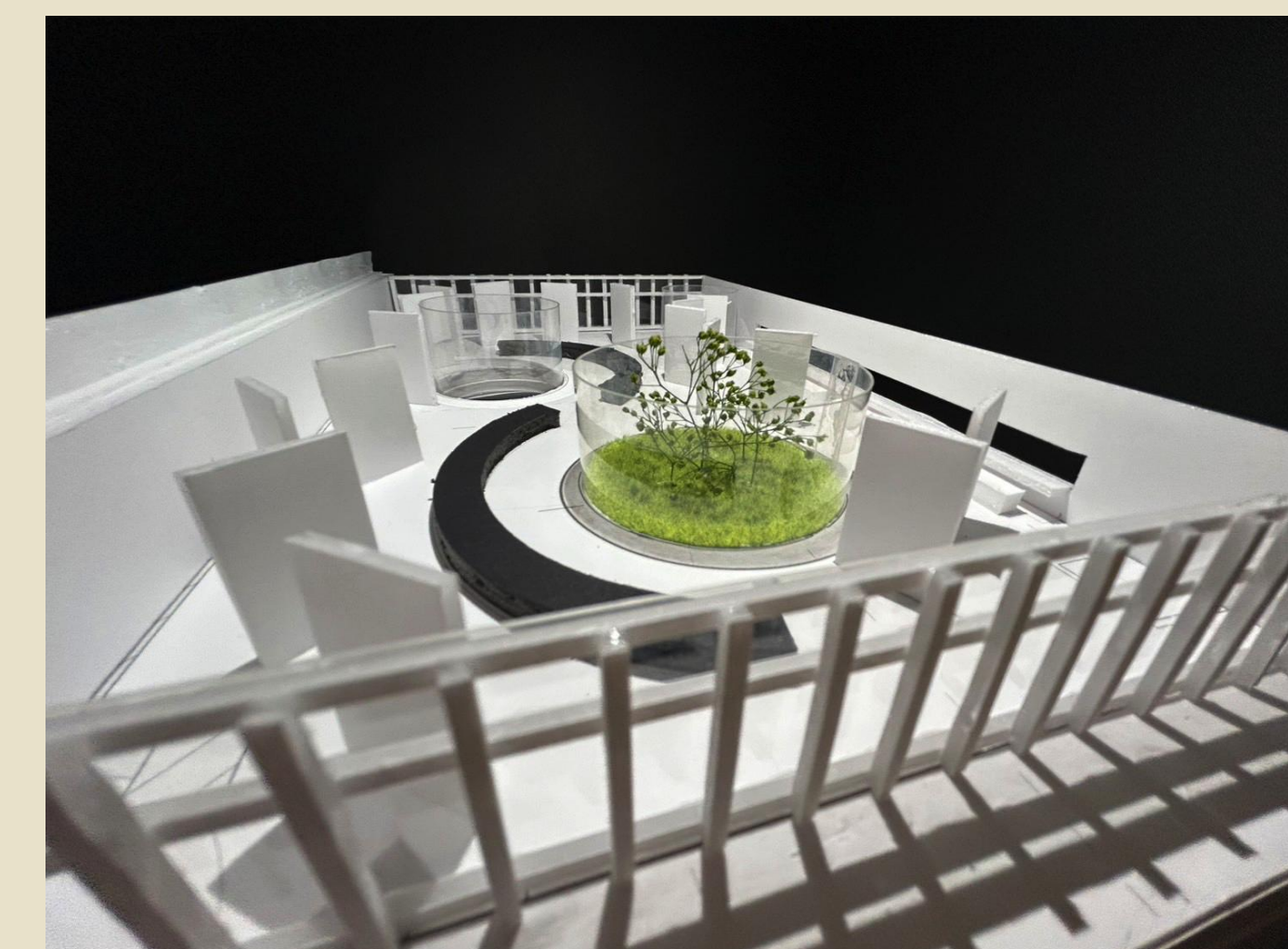
大学や学生の移り変わりを、駅を映り変えることで表現。

- ①学生の作品を外観に展示し、年毎に作品を変えていくことで、**学生の移り変わり**を表現。
- ②朝は学生、夜は会社員など、時間帯によって**利用者が移り変わっていく様子**を、駅へのライトアップや照明などを使って表現。

意義

なんとなく過ごしてしまいがちな大学生生活を、「移り変わり」を感じることで時間の経過、一年一日が過ぎていくのを感じる。

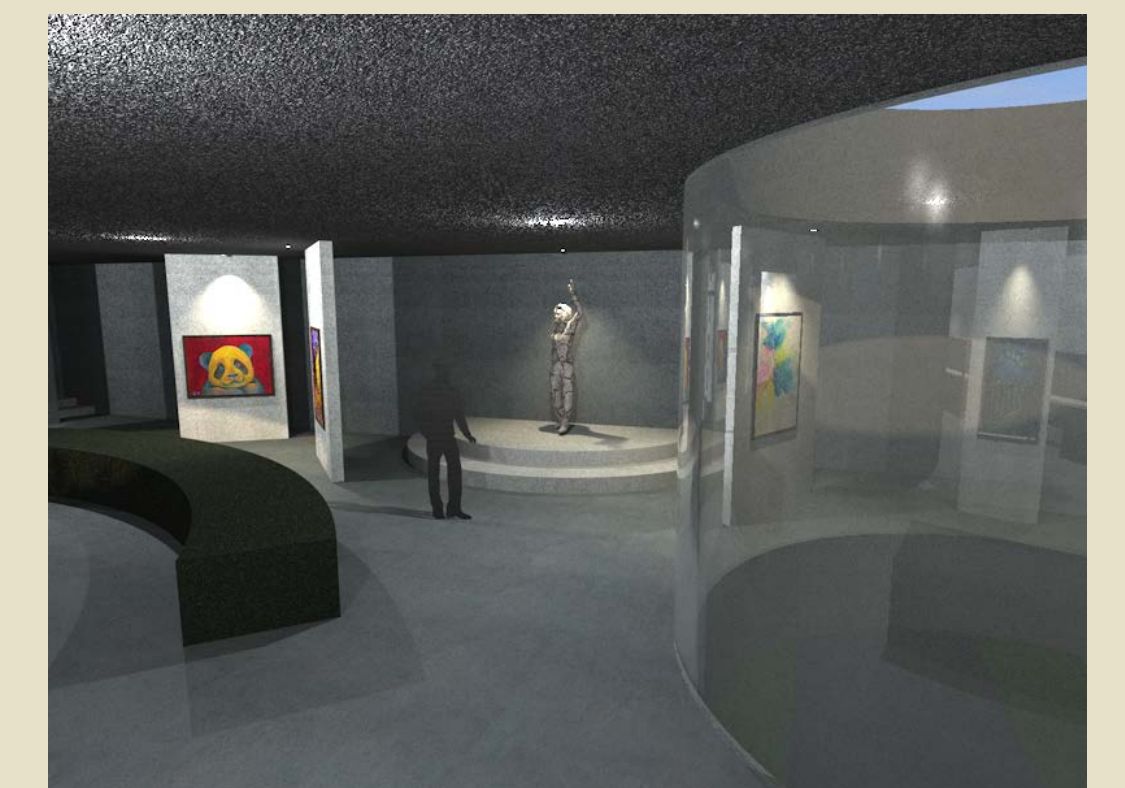
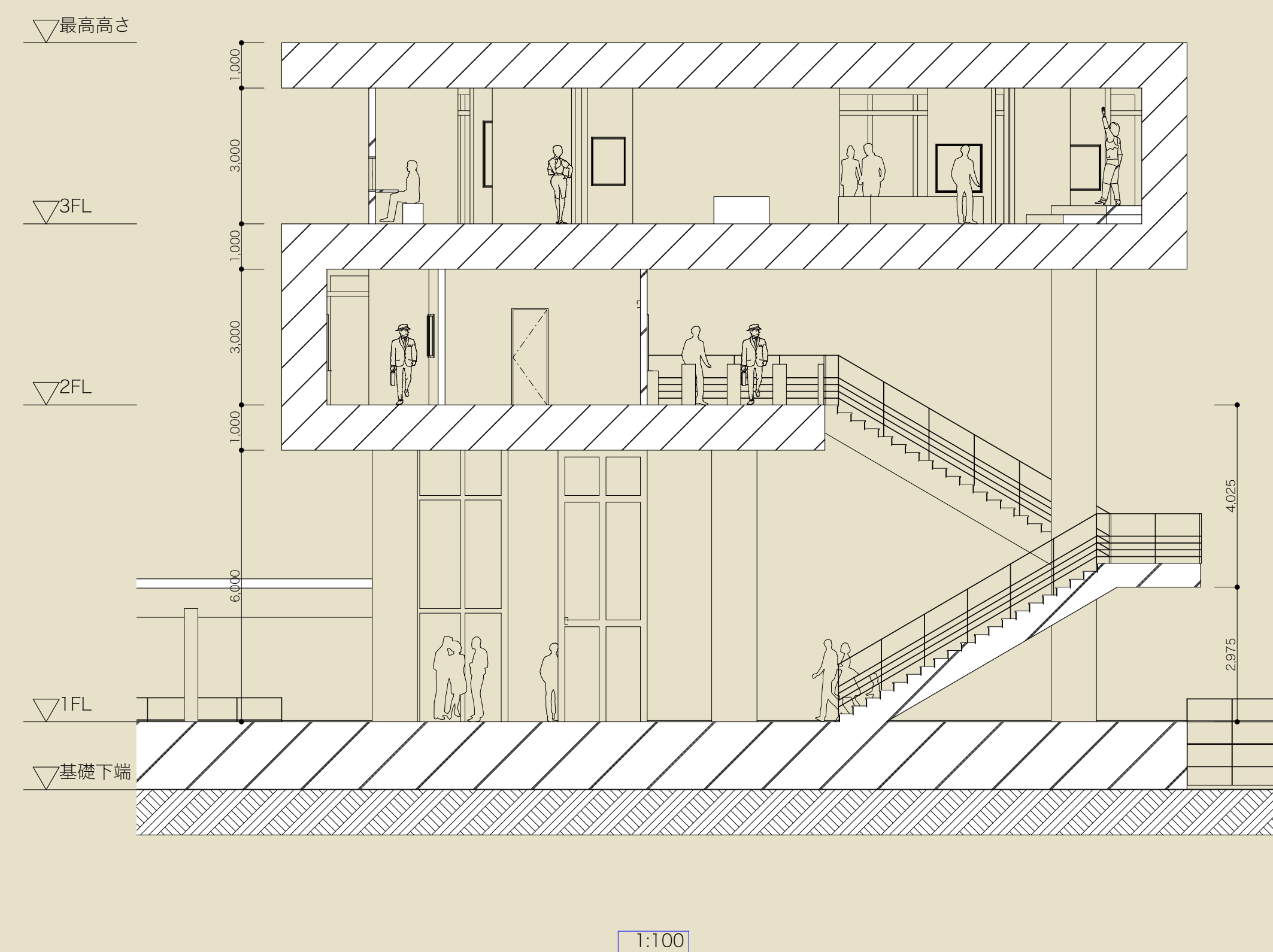
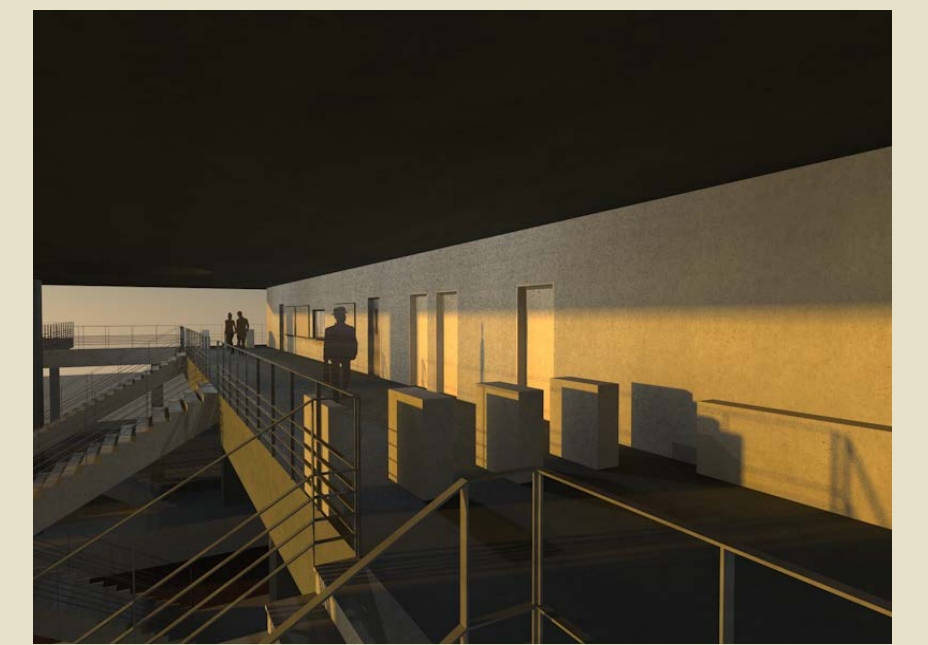
そうすることで、学生や利用者が一日一日を大切にできるような駅になるのではないかな。



8. 駅機能と自由通路

二階部分には駅機能が集中している。改札や券売機、駅務室、窓口など、駅に必要な施設は全て二階に設置されており、二階から柵内に入り、ホームへ降りていくことができる。

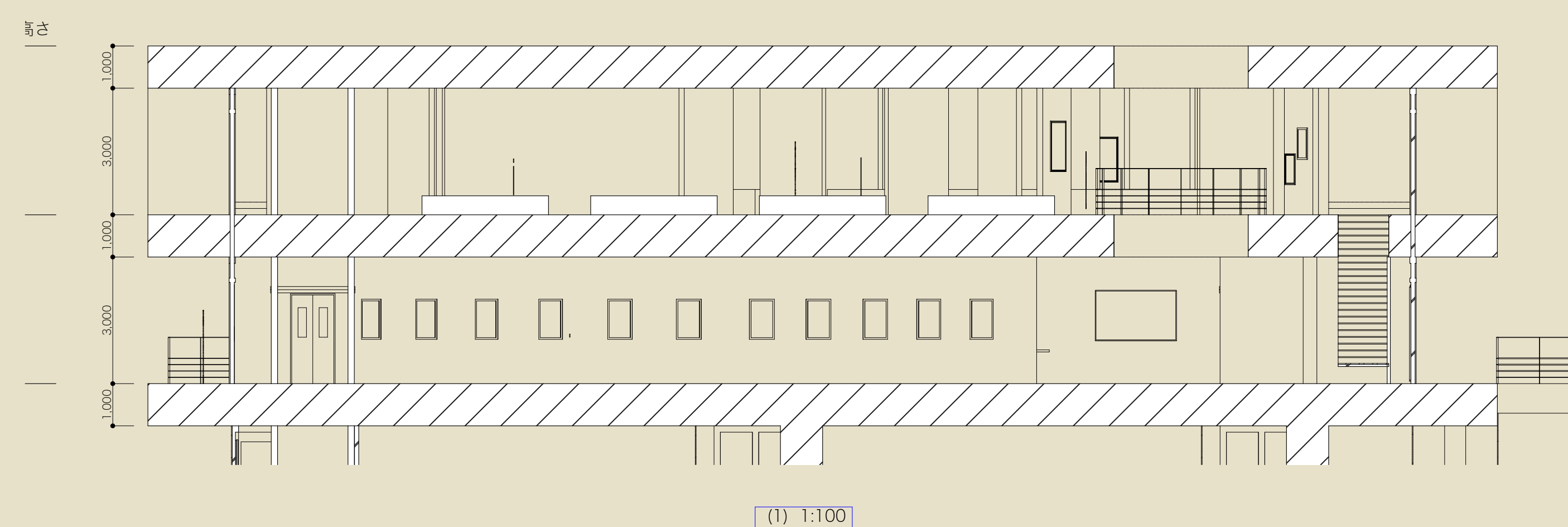
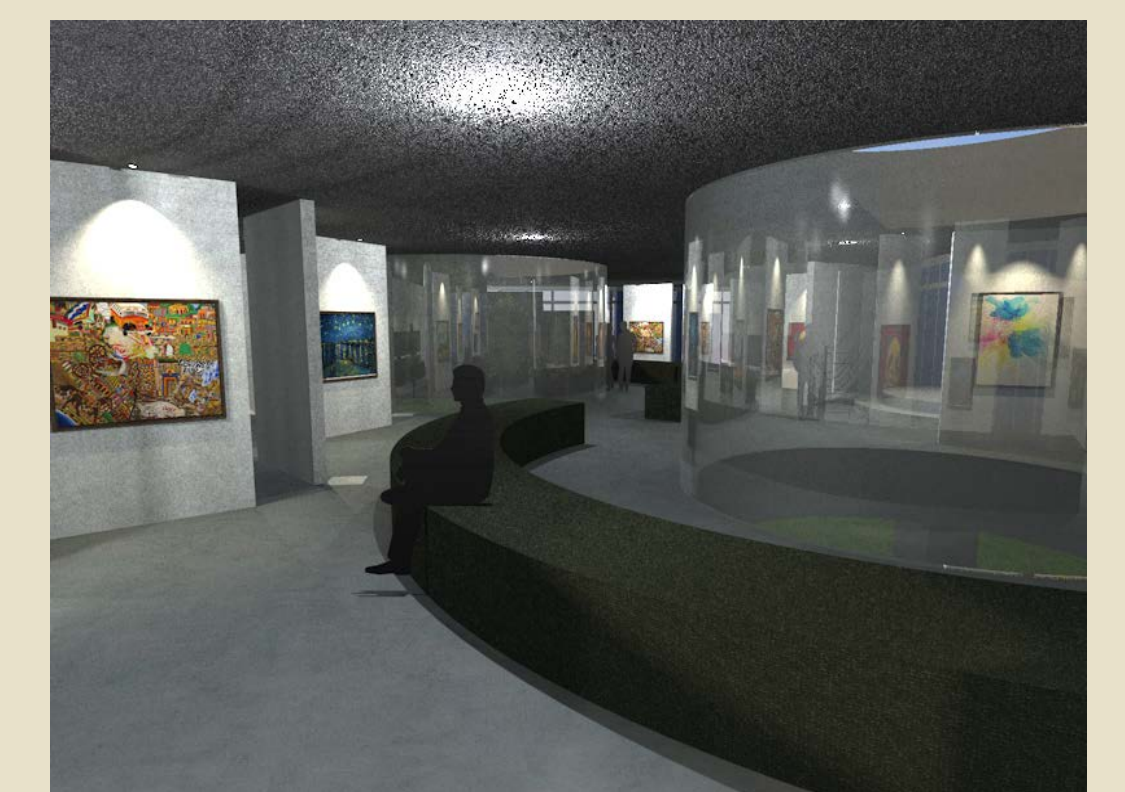
また、地域から大学に通い抜けることができる自由通路も設置しており、学生の作品や広告を見ながら通り向けることができる。

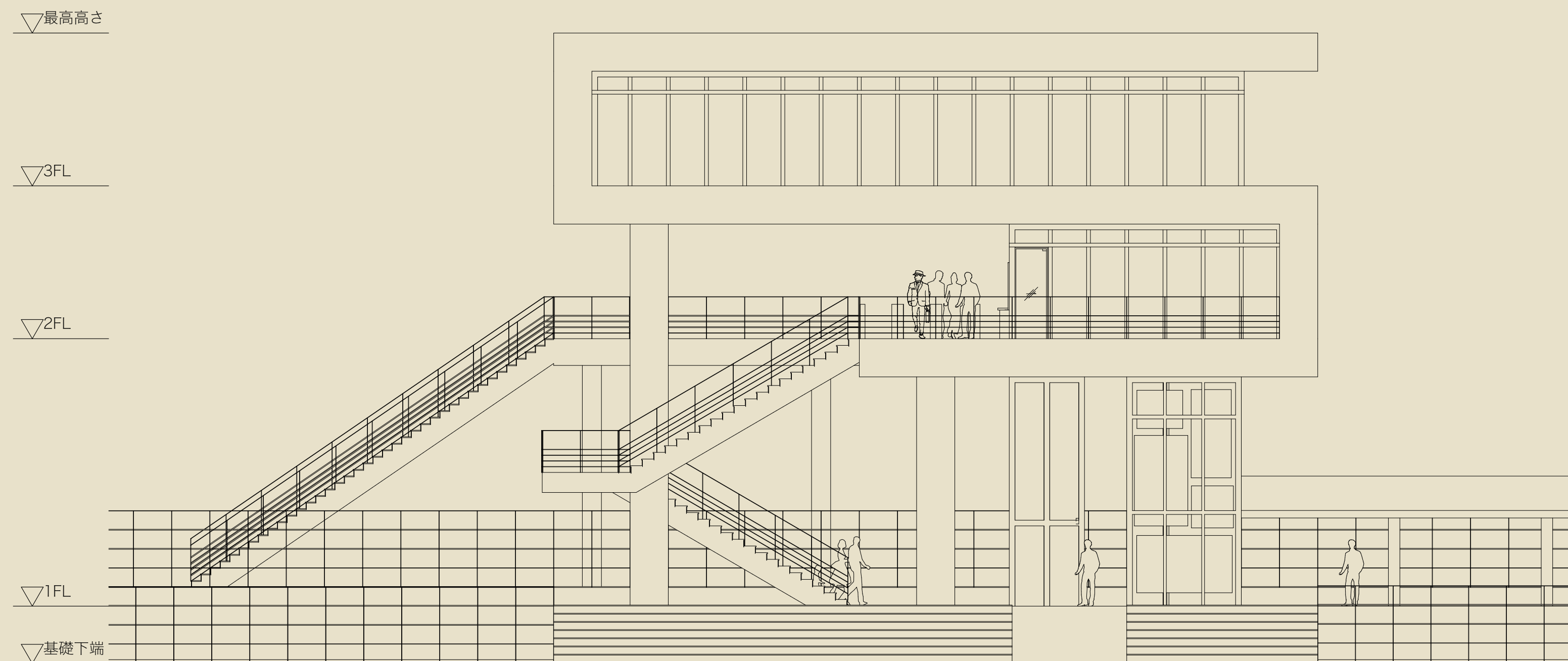


9. 待合室兼、作品展示スペース

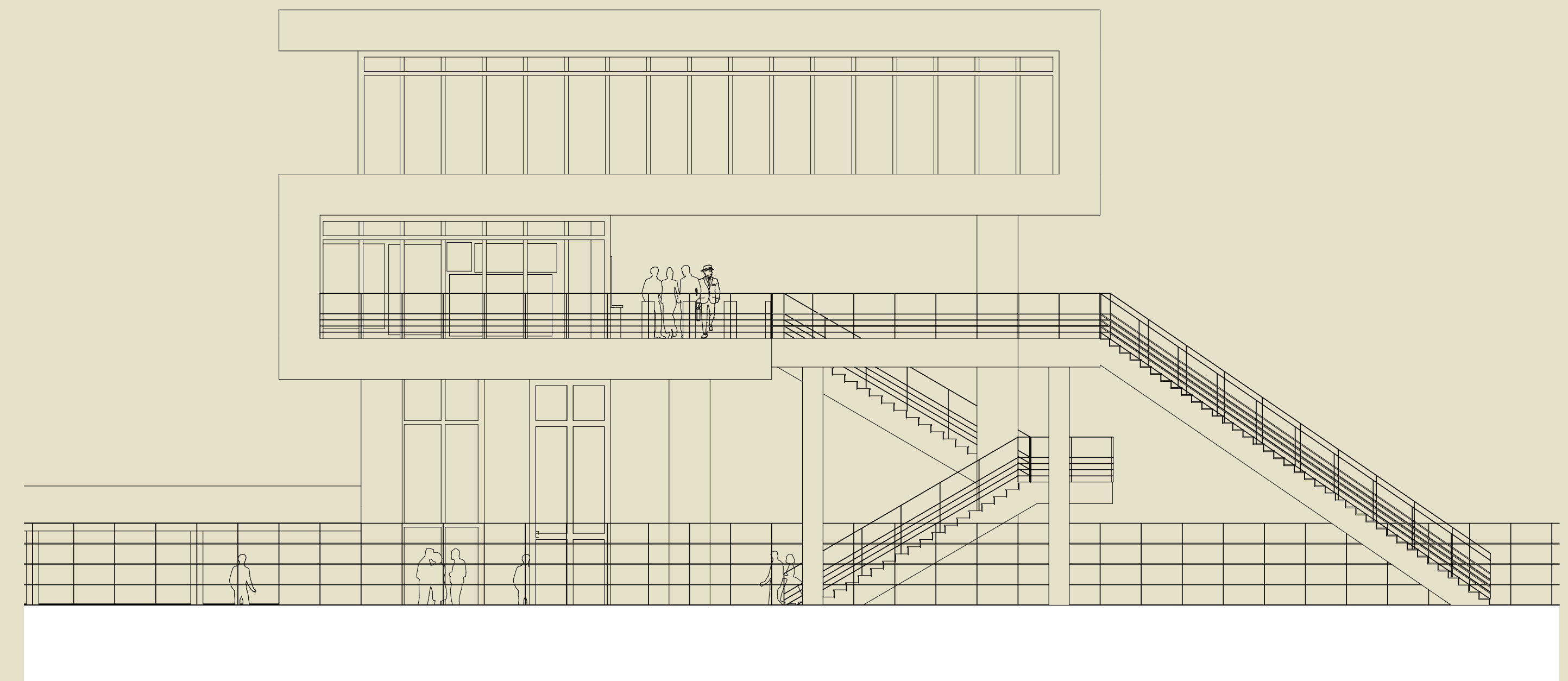
三階部分は学生の作品展示スペース兼待合室になっている。無造作に設置された壁面に学生の作品が展示されており、景色の移り変わりを感じながら作品を楽しめる空間になっている。

ワーキングスペースや中庭を設けており、ゆったりと時間を過ごすことができるようになっている。

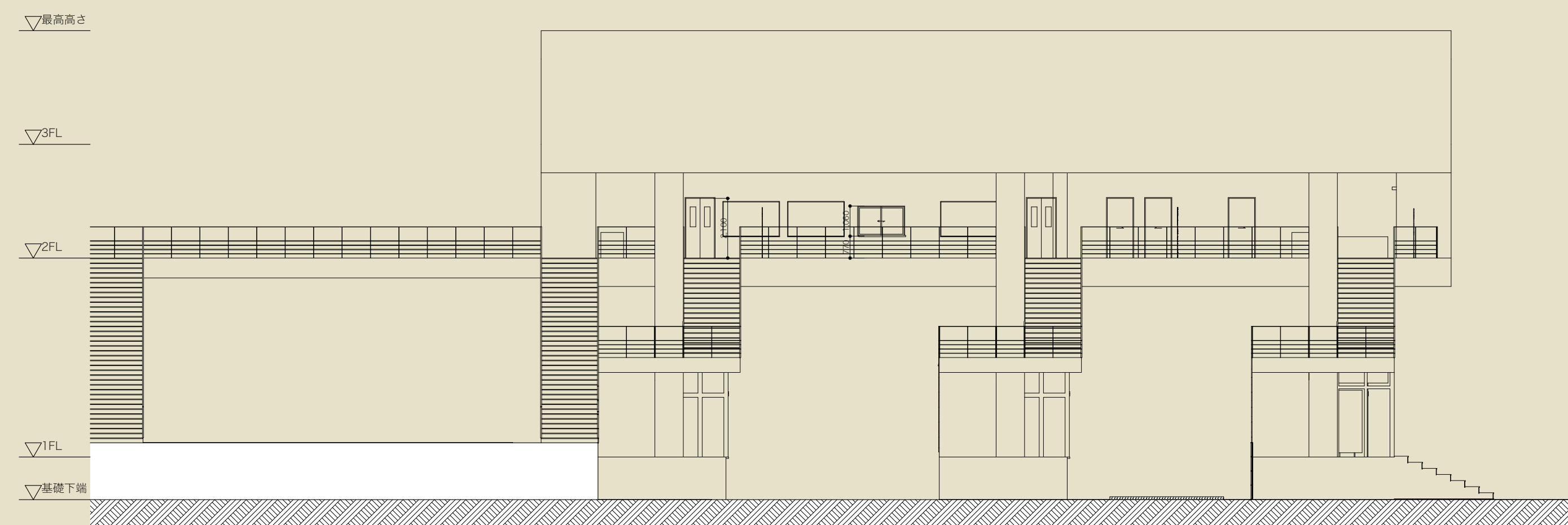




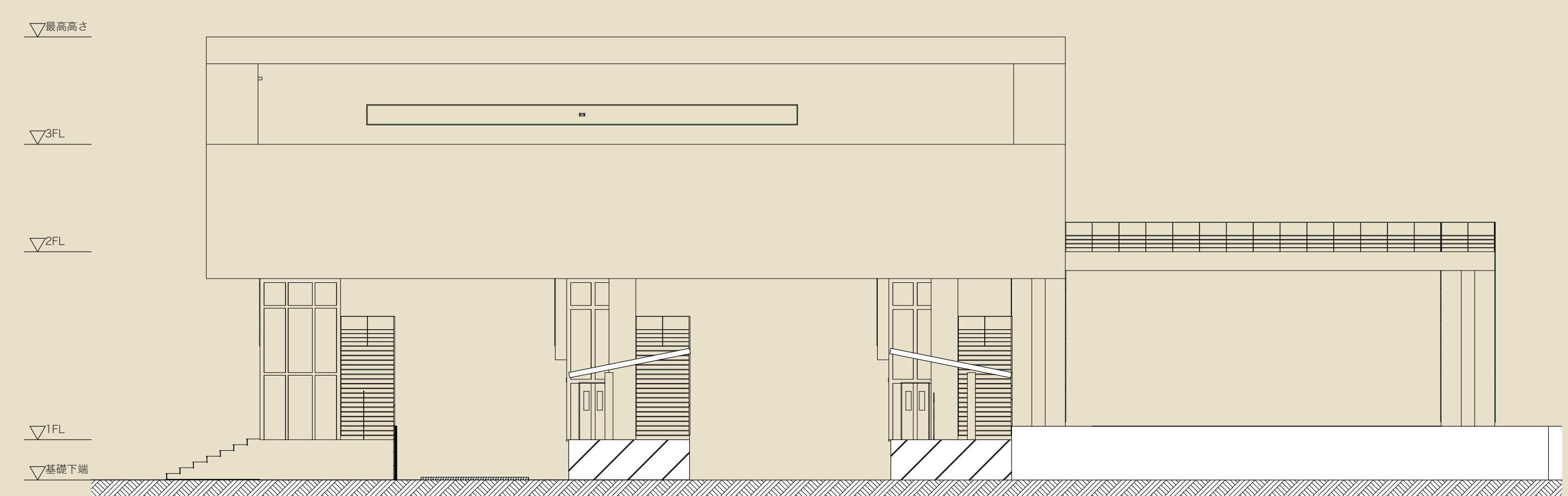
東側立面図 1 : 100



西側立面図 1 : 100



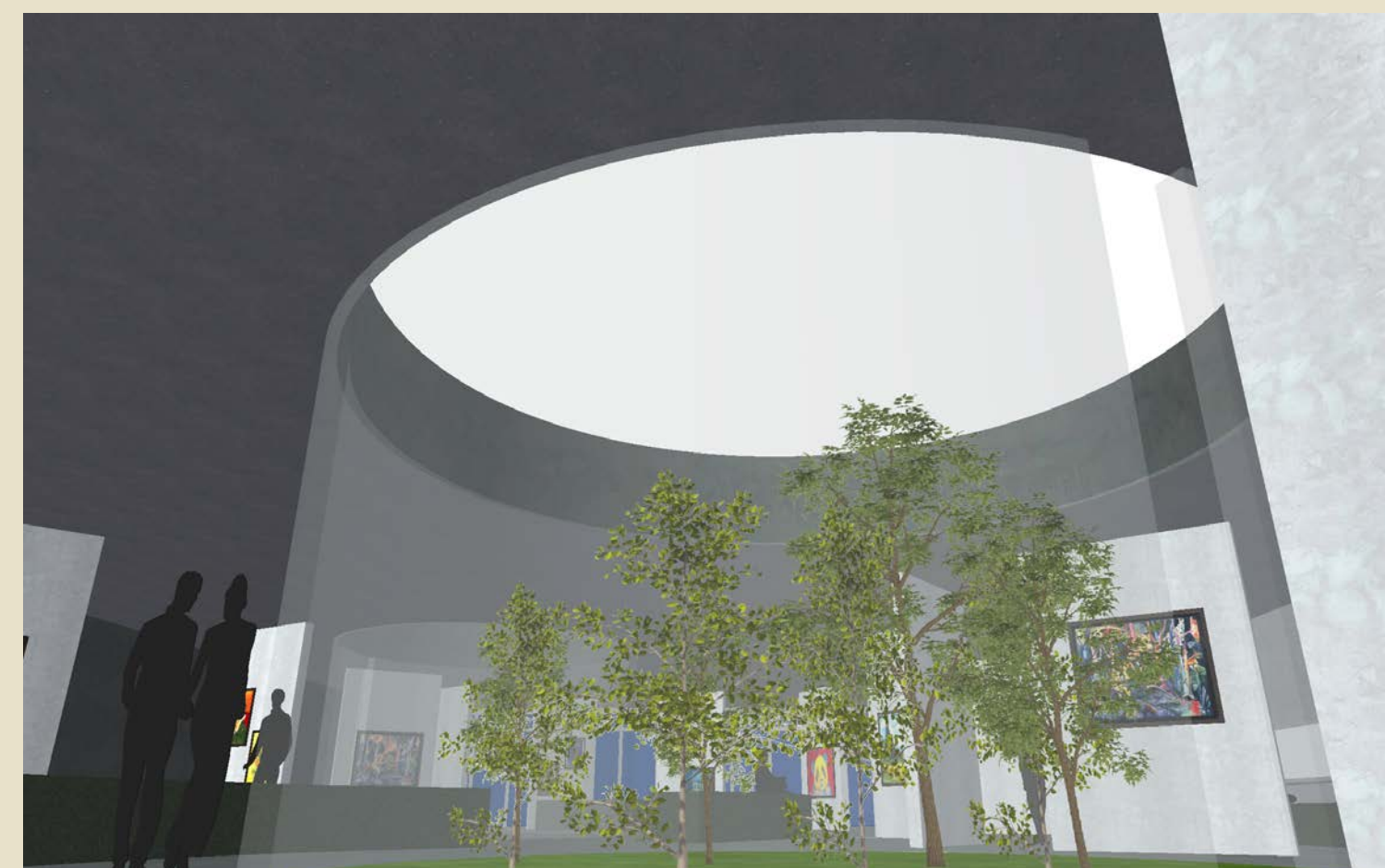
北側立面図 1 : 150



南側立面図 1 : 150

10. シンプルな外観デザイン

外観はシンプルなデザインにすることにより、展示作品などの移り変わる要素が引き立つ。コンクリート打ちっぱなしの外観は大学向かって正面にある美術館とリンクするようなデザインになっている。ファサードから見たときのS字のような形状は、このまちや駅、九州産業大学の時代がひとつなぎに移り変わってきた様子を落とし込んだデザインになっている。



各階に光を落とす天窗

屋上から空いた三つの天窗は各階に貫通しており、それぞれに光を届け、空間を繋ぐ役割をになっている。また、どの階からも三階の様子を覗き見ることができるようになっている。